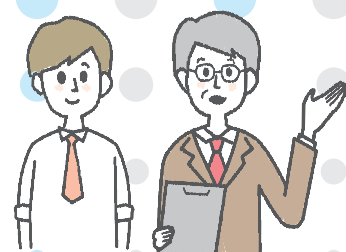


研究したいけど…。

- 費用が足りない
- 研究設備がない
- テーマが定まらない
- 何から始めたらいいかわからない

研究交流室で説明を聞こう！



- 研究費の援助
- 研究テーマの決定
- 計画書の書き方など

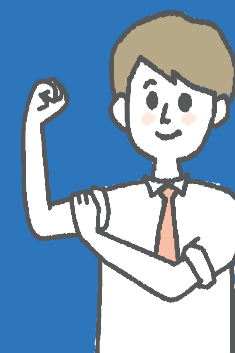


研究 応援します



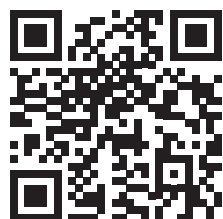
先導的研究者体験プログラム(ARE)で
研究者の生活をリアルに体験！
もちろん、研究テーマは自由です！

Kdb「研究者体験2020」で **検索**



【事務局】
筑波大学 研究交流室
(第三エリア 3B棟2階 3B205室)

〒305-8573 茨城県つくば市天王台1-1-1
TEL/FAX 029-853-8284
E-MAIL ARE@un.tsukuba.ac.jp



プログラムについて相談したい学生は
事前にメールで相談を希望する日時を
お知らせください



研究者に必要な3つの能力を鍛える

探究力

科学研究費補助金(科研費)と同じように、研究のレベルに応じて研究費の額に区分を設け、研究活動を行いたい全学群の1～3年生(編入生も可)に、研究計画書の申請をしてもらいます。審査を受けて採択され、アドバイザー教員の認可が得られれば、学生は早期に研究室配属され、4年生や大学院生のような研究活動ができる体制になっています。このプログラムでは、研究者生活を体験させるだけでなく、自分自身で見つけた研究課題を試行錯誤しながら研究を遂行し、物事を探究する力を習得してもらいます。それに加えて、研究業績・研究成果に応じて、レベルの高い申請ができますので、自分自身のレベルアップにもつながられます。研究終了後は、実績報告書を提出してもらい、成果の審査を行います。

表現力

参加者全員が研究成果の報告を行う研究発表会を開催します。この研究発表会では、自ら発見したことや創造したことを人に伝えることの喜びと難しさを体得することで表現力を身につけてもらいます。全ての発表者が互いの研究内容を知ることができるよう、ポスターセッションを設けています。研究意欲の向上や異分野の方に研究内容を伝える力を伸ばすために、優れた発表をした学生には賞を授与します。研究発表会は学内外に公開し、どなたでも参加できます。毎回、外部評価委員の先生方に学生の研究発表を評価して頂いています。

コミュニケーション力

参加学生がより確固とした目標を持ち、研究者生活をより明確にイメージしてもらうために、研究者、起業家、個人事業主や大学院生などを招いて、研究体験談や研究の話を聞き、講演者と交流するセミナー(交流セミナー)を実施します。このセミナーで異分野の参加学生や教員と交流することで、分野外の人たちに自分の興味・関心を伝えることのできるコミュニケーション力を磨かせます。

筑波大学は新たな学問分野を開拓する
先導的研究者を育成します

「先導的研究者体験プログラム」(ARE)は、全学群・学類の1年生から3年生を対象に、理系、文系を問わず、学生諸君の自発的な研究活動を支援するプログラムです。このプログラムは、学生の研究意欲や研究能力を伸ばすと同時に、自発的に学び力をつけ、創造的で稀有な人材を育成することを目的としています。

筑波大学は、1973年の開学以来、多様な分野を見渡す力と専門的知識に基づく学際的研究・教育を先導する人材の育成を行って来ました。2019年4月からは、さらにこの理念を押し進め、新たな総合智教育を実施しています。そこでは、総合科目、体育、外国語、情報、国語、芸術といった一般的な知の探求に加えて、「専門導入科目」として、自分の専門としたい分野に関する知識や技能のほか、様々な専門分野の基礎を学びます。つまり、学問分野を広く俯瞰しながら、自分が学ぼうとする専門分野の特徴を理解し、あわせて多様な学問分野を横断して考える基礎を学ぶものです。AIなどデジタルサイエンスの革新が社会に大きな変化を生んでいる過渡期において、新しい学問分野を創成し、これまでにない発見をしていただきたいと考えます。

最近、高校において課題研究などが盛んに行なわれ、優れた研究成果をあげていますが、課題研究などの経験が高校までになかった人でも、「筑波大学では自分で何らかの課題を決めて調べてみよう」と考えている人も少なくありません。また、1年次の授業において、もっと自分が学びたいこと、研究したいことに直接結びつく知識を得たいと思う人もいるに違いありません。このAREは、自分の興味のある研究課題について、財政的支援を受けながら、すぐにスタートすることができるプログラムです。

あなた自身の関心のあるテーマについて「研究計画書」を作成し、AREに提出してください。あなたの課題が採択されれば、すぐに自分の研究課題に取り組むことができ、研究者の卵として、研究人生をスタートさせることができます。そして、自分の研究結果についてプレゼンテーションを行うときには、すでに新人研究者として研究キャリアをスタートさせているのです。

研究課題について、あまり難しく考える必要はありません。「世紀の大発見」といわれるこれまでの研究も、初めはちょっとした思いつきやきっかけから始まることも少なくありませんでした。皆さんの研究課題が、将来、大きな研究成果へ通する可能性も十分あります。その一方で、研究者としての道のりは、決して平たんではなく、克服しなくてはならない問題に突き当たることも幾度となくあるでしょう。一見、まったく関係のないと思われる分野や領域の人と接して、さまざまな意見やアドバイスを受けることにより、研究上の問題解決のヒントを得られる場合も少なくありません。

筑波大学は、他の大学に比べて学群間の壁が低く、異なる分野の授業を受講し、幅広い知識を獲得することが可能な教育システムを採用しています。本学のこのような利点を、皆さんの研究に大いに役立ててほしいと思います。AREでも、「研究者体験」の授業で、異分野の学生との合同研究発表会や「交流セミナー」を開催して、皆さんの研究上の視野が、さらに広がるよう応援しています。また、AREは学群での基礎的な課題研究を、将来、大学院での本格的な研究活動に発展させることも奨励しています。理系、文系を問わず、研究に関心をもつ多くの学生の参加を期待しています。



筑波大学教育担当副学長
清水 諭

H21～H31までの採択状況

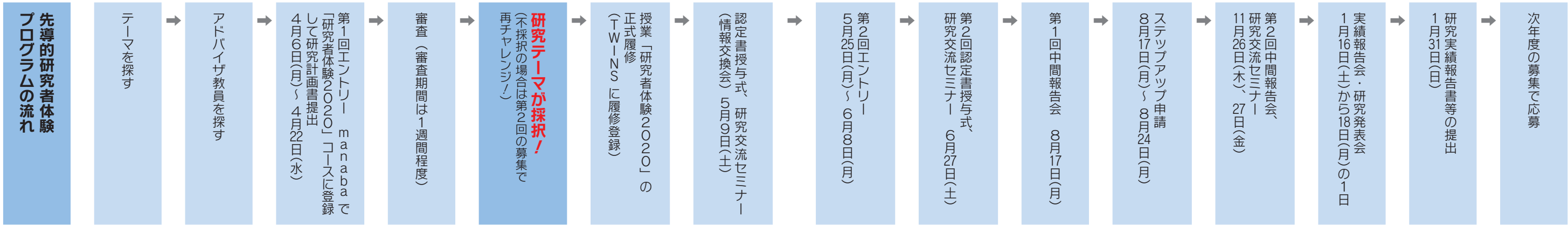
所属別参加学生数

所属	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
人文・文化学群	-	-	-	-	3	7	7	3	2	8	13
人文学類	-	-	-	-	3	4	6	3	1	8	11
比較文化学類	-	-	-	-	0	2	1	0	0	0	2
日本語・日本文化学類	-	-	-	-	0	1	0	0	1	0	0
社会・国際学群	-	-	-	-	0	1	1	0	0	1	2
社会学類	-	-	-	-	0	1	0	0	0	0	1
国際総合学類	-	-	-	-	0	0	1	0	0	1	1
人間学群	-	-	-	-	0	0	1	0	0	0	2
心理学類	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	1
障害科学類	-	-	-	-	0	0	1	0	0	0	1
生命環境学群	9	15	14	21	16	20	21	15	20	16	14
生物学類	6	11	10	7	8	7	14	8	12	8	6
生物資源学類	3	4	3	13	4	12	7	6	7	8	4
地球学類	0	0	1	1	4	1	0	1	1	0	4
理工学群	10	5	10	19	8	19	6	10	7	19	25
数学類	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
物理学類	5	2	2	5	3	1	1	0	0	0	0
化学類	0	1	0	2	1	2	1	0	0	0	1
応用理工学類	1	0	4	5	3	6	3	5	4	7	4
工学システム学類	4	2	3	7	1	7	1	2	3	12	19
社会工学類	0	0	0	0	0	2	0	3	0	0	1
情報学群	5	3	1	3	5	1	14	15	19	19	19
情報科学類	2	1	0	1	4	1	4	3	1	4	2
情報メディア創成学類	3	1	1	2	1	0	8	11	14	15	10
知識情報・図書館学類	0	1	0	0	0	0	2	1	4	0	7

先導的研究者体験プログラム (ARE)で研究者生活をリアルに体験！！

全学群
1～3年生対象

－ 研究の厳しさ、発見や創造の喜びを体感し、学習意欲や課題探究力を磨こう －



令和2年度は「研究者体験2020(通年集中)」を開設します。
本プログラムに応募するには、まず学習管理システムのmanabaで「研究者 体験2020」コースに登録してください。